

学びの創造

大震災後の猛暑から一転、肌寒い風にさらされる日々がやってまいりました。秋の夜長にも飽きないでいられるちょっと鮮烈なニュースをいくつかご報告したいと思います。

★臨床心理士試験が行われています

あまり当学部では脚光を浴びることがありませんが、例年 10～11 月にかけて、臨床心理士の資格試験が行われています。1988 年に始まる臨床心理士資格の有資格者は、全国に約 2 万人余りいます。スクールカウンセラーをはじめとする教育領域、病院などの医療領域、一般企業のメンタルヘルス室などの産業領域、鑑別所や刑務所などの司法矯正領域、といった様々な分野で臨床心理士が活躍している昨今ですが、この臨床心理士資格は文部科学省の認定を受けているものの、意外にもまだ民間資格なのです。国家資格へと昇格させる動きも数年にわたって続いています。多くの人に貢献するためにこの資格が発展することを願っていますが、まずは秋田大学から誕生する臨床心理士の皆さんの合格を応援しています！

★教師の職場環境に関する報告

近年、教師の業務が常に過酷な職場環境に置かれているというニュースが時折報道されますが、今回は①教師の労働時間、②離職にかかわる精神科疾患という 2 つのニュースを取り上げてみます。

①労働時間に関する経済協力開発機構 (OECD) 調査

先進国の中で日本の教師は勤務時間が長く、事務作業などに多くの時間を割いていることが経済協力開発機構(OECD)の調査によって明らかになりました。2009年の日本の小学校教師の勤務時間は年間1899時間でしたが、これは米国に次ぐ2位の長さでした。しかし、勤務時間が2位であるにもかかわらず、この中に占める授業時間はOECD加盟国の平均さえも大きく割っていました。つまり、勤務時間は長いものの、授業以外の事務作業等にかなりの時間を奪われ、授業時間に十分な時間を取ることも必要と思われます。子どもたちと直接かかわる時間が設けられるよう、学校システムそのものを変えていくことが必要になりそうです。

(いずれもasahi.com 8月25日版、9月14日版より一部引用)

< 今年度の学会・研修会情報 >

■日本ブリーフサイコセラピー学会(秋田大会)

11月3日(木)～5日(土)

場所: カレッジプラザ・秋田県総合保健センター
(下記ポスターが県内各所に貼ってあります)

あと1週間ほどで標記学会開催の運びとなりました。

今回は秋田県で開催される記念すべき大会であり、大会

長は当学部の高田知恵子教授、準備委員長は当センターの柴田健教授で、秋田大学のスタッフと県内の学会員が中心となって準備を進めています。

興味のある方は当日参加も可能です。興味のある方は下記までご連絡ください。

日本ブリーフサイコセラピー学会
第 21 回秋田大会事務局

e-mail: 21akita@jabp.jp



②精神疾患を理由とする退職

文部科学省の「学校教員統計調査」(平成21年度)によれば、精神疾患を理由に退職した教師は897人にのぼることが明らかになりました。

内訳としては、幼稚園229人、小学校354人、中学校194人、高校120人。驚くべきは「病気による退職者(1,784人)」の半数以上を精神疾患が占めるという点です。

教師の多忙さはほぼ慢性化しており、また人に深くかかわるといふ点では精神的な過負荷状態を生じやすい構造にあります。日本の将来を担う子どもを預かる学校を動かしているのが教師ですから、教師を守るための方策は国も本腰を入れて対応していただきたいものです。